

第2章 実践事例—小学校編—

事例 1 「以心伝心」の仲間をめざして
(三田市立武庫小学校第 5 学年)

小学校事例1

「以心伝心」の仲間をめざして

三田市立武庫小学校第5学年

1 テーマ

「以心伝心」の仲間をめざして

2 実践のねらい

自分の名前を調べることをとおして、自分の名前には多くの成長の願いが込められていることを理解する。また、子どもたちが自分自身の様々な感情に気づき、友だちの感情に共感し、共に支え合う体験をおして、自他を大切にすることを培う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、北摂三田ニュータウン開発により最初に設立された小学校で、児童数 600 人を超える大規模校である。

子どもたちの日々の生活を見ていると、「人間関係づくり」に悩む子どもたちが多くなっているように感じる。「むかつく」「きれる」という言葉が簡単に使われ、自分自身の怒りの感情をあまりにも安易な言葉（「死ね」「消えろ」等）で表現してしまったり、場の雰囲気が読めず、相手が傷つくような言葉を簡単に発したりするという実態がある。これは、自分自身の様々な感情に気づき、それを自分自身で対処する方法を体験として学んでおらず、そのため友だちとの些細な感情の行き違いが、大きな「対立」や「もめごと」に発展しているのではないかと、またそれを解決する方法を学んでいないからではないかと考えた。

そこで学級目標である「以心伝心の仲間をめざして」をテーマに、自分たちの学級がお互いの存在、命を大切にできる集団となることをめざして学習を進めた。

まず、自分自身の名前について自分で調べるという作業を行い、あらためて自分や友だちの存在の大切さに気づかせ、その後「自分の感情を受け入れる」「受容的な人間関係をつくる」「相手を傷つけないで自分の考えを言葉で表現する」という流れで指導した。アサーション・トレーニングやリラクゼーションを体験的に学ぶ活動を取り入れ、自他を思いやる気持ちを育むことをねらいとした。

さらに、「いじめ」の問題について、お互いを感じたことを語り合う中で、いじめは許されない行為であるという共通認識を持たせ、共に支え合う豊かな人間関係を築く力を身につけさせることをねらいとして実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・「名前」にこめられた家族からの願いを知るとともに、友だちの名前の由来を知ること、お互いが望まれて生まれた命であることに気づかせる。
- ・自分の様々な感情に気づき、それに対処する方法を身につけることにより、感情をコントロールできることを感じさせる。

【感性を育む】

- ・周りの友だちの特性に気づき、理解し合おうとする態度を育てる。
- ・いじめがいじめられる側に原因があるのではないこと、周りの者の関わりによっていじめをなくすことができることを理解させる。

【想像力の育成】

- ・相手を傷つけないで自分自身の思いを伝える方法を考えさせる。
- ・自分の思いがどうすれば相手に受け止めてもらえるか、相手の立場に立って考えさせる。
- ・友達から疎外されている人の気持ちを想像し、自分にできる援助を考えさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・学級集団の状態を把握するための調査の分析方法を知り、学級指導への生かし方を学んでおく。
- ・児童の家庭環境等の状況を把握するとともに、家庭に本実践についての理解と協力を依頼する。
- ・学級集団の状態を把握するための調査を実施、結果を分析するとともに、児童の実態について把握しておく。
- ・担任と学習・体験内容についての共通理解を図り、授業以外の場面でも本実践の趣旨を踏まえた関わりを依頼する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・体育（保健分野）
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・漢和・国語辞典の使い方を学ぶ。
- ・いじめについて自分の考えをまとめる。
- ・自分の名前の由来について思い出す。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、豊かな人間関係を築く教育を進めていくねらいや趣旨を伝え、理解と協力を求める。

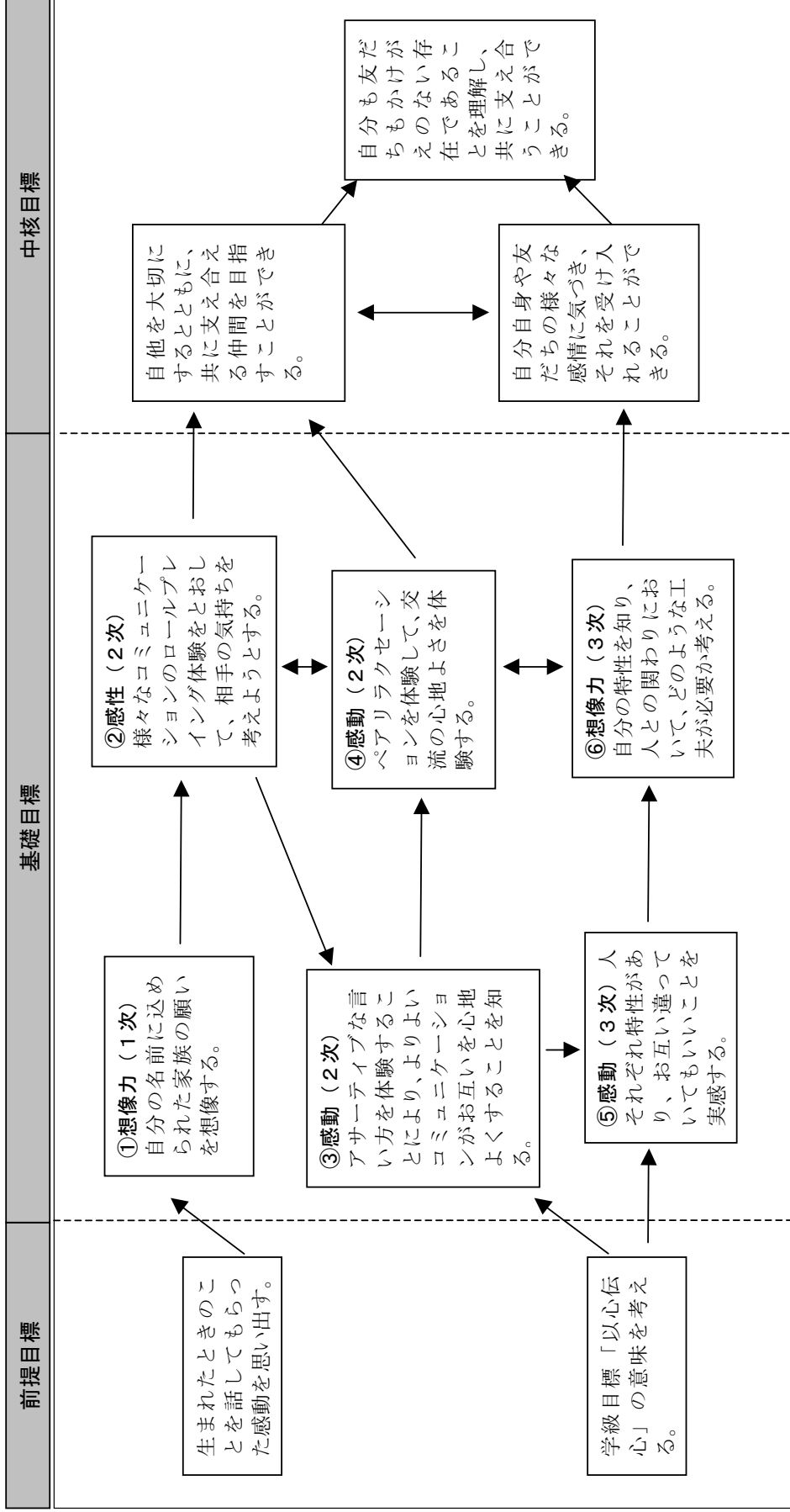
5 本校の実践の特色

- (1) アサーション・トレーニングやストレスマネジメントの体験をとおして、豊かな人間関係を築く方法について学ぶ。
- (2) 担任とのチームティーチングで取り組む。
- (3) テーマを学級目標と合致させ、児童に本実践のねらいを明確に意識させる。
- (4) いじめ防止教育を行う。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○学級目標「以心伝心」の意味を考える。 ○自分の名前について調べたことを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生まれたときのことを話してもらった感動を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前のもつ意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前の漢字や言葉の意味を想像してみる。 ○いじめについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前の持つ重みを想像させることができたか。 ○友だちの名前にも興味をもたせることができたか。 ○お互いの存在を大切にしようという意識を持たせることができたか。
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前の意味を考える。 ○「名前発表会」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前を辞典等で調べ、その言葉や漢字の意味を知る。 ○友だちの発表を聞き、自分も友だちも大切にされている命であることを大切に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この世に生を受けて、最初に家族から贈られたものが名前であることに気づき、自分がこの世でかけがえのない存在であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前の漢字や言葉の意味から自分の名前に込められた家族の願いを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人には様々な感情があることを理解させることができたか。 ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感させることができたか。
2次（5時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のストレス対処の仕方を知る。 ○人との様々なコミュニケーションの取り方を知り、相手を傷つけないで自分の思いを伝える方法を知る。 ○ペアリラクゼーションをおして、友だちを助け、助けられるということの心地よさを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感する。 ○アサーティブな言い方を体験することにより、よりよいコミュニケーションがお互いの心地よくなることを知る。 ○ペアリラクゼーションを体験して、交流の心地よさを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ストレス帯グラフ」を書くことで、人によりストレスの感じ方が違うことに気づく。 ○様々なコミュニケーションのロールプレイング体験をおして、相手の気持ちを考えようとする。 ○自分の心を守るしくみを知ることと、より良い解決の方法を見つけようとする気持ち育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のストレス対処の仕方を知り、よりよい対処法を知る。 ○アサーション・トレーニングをおして、感情の行き違いの要因がコミュニケーションによることを知る。 ○自分の小さな支援で困っている友だちの手助けができることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人には様々な感情があることを理解させることができたか。 ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感させることができたか。 ○ロールプレイング体験をおして、よりよいコミュニケーションの取り方を実感させることができたか。 ○ペアリラクゼーションにより、友だちと交流する心地よさを感じ取らせることができたか。 ○心と体が深く関係していることを理解させることができたか。
3次（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○『十人十色なカエルの子』を読み、様々な「困難さ」を知り、関わり方や工夫の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人それぞれ特性があり、お互い違ってもいいことを実感する。 ○発達に関わる様々な「困難さ」について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「十人十色」の意味を考える。 ○作者が伝えたい思いを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の特性を知り、人との関わりにおいて、どのような工夫が必要か考える。 ○友だちがどのようなことに困っているか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友だちにある「困難さ」を理解させることができたか。 ○一人ひとり、成長に違いがあることを理解させることができたか。
4次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○『大石さんのこと』を読み、いじめの問題について対処の仕方を知る。 ○構成的グループ・エンカウンター体験により、仲間と力を合わせ助け合うことの心地よさを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの行為そのものが許せないという思いを実感する。 ○自分自身や友だちの様々な感情に気づき、それを受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめられる側にも問題がある」という考えについて、自分の意見を持つ。 ○自分も友だちもかけがえのない存在であることを理解し、共に支え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめられられている大石さん自身の思いを想像する。 ○自他を大切にするとともに、共に支え合える仲間を目指すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめを許さない」という思いを持たせることができたか。 ○今までの学習を生かすことができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○「勇気」に関する絵本を読み、自分たちができていることを考え、その思いを込めた5年2組の詩を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの言葉を集め「勇気の詩」を作ることとおして、自分が一人ではないことを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちを通じ合う喜びを感じ、そうした気持ちがいじめに立ち向かう力となることを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、どのようなクラスにしたいか発表し合う。 	

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修例（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

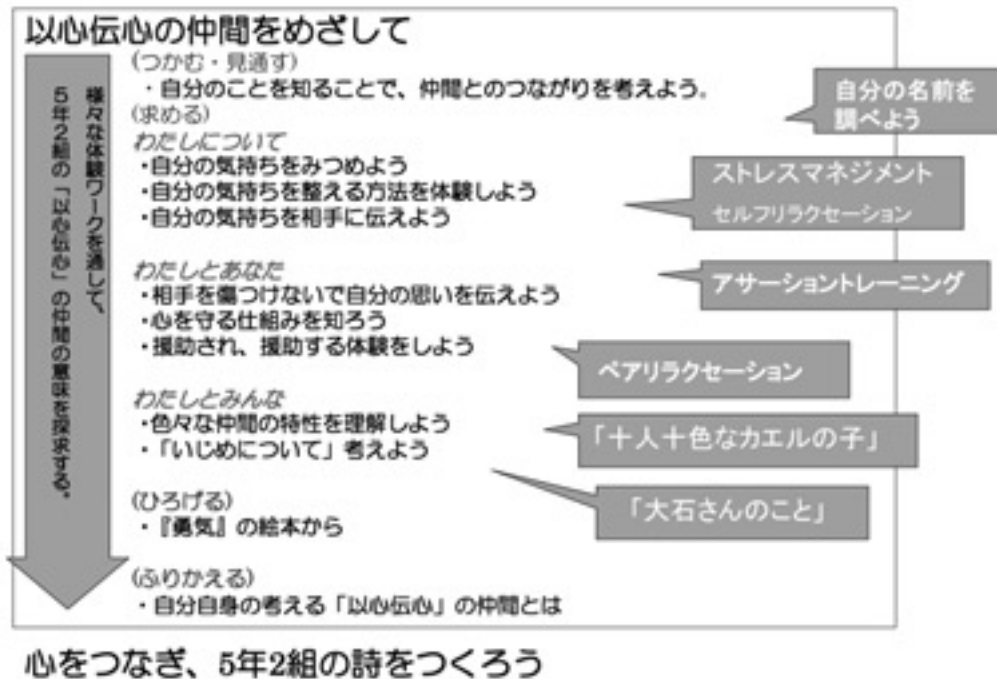
研修内容	
a	○児童の友人関係や学級の実態把握の方法を知る。 ・調査結果の分析方法について学ぶ。
b	○集団づくりや仲間意識を高めるための研修をする。 ・構成的グループ・エンカウンターの実験をする。 ・ストレスチェックを行いストレスマネジメントの実験をする。
c	○発達障害についての理解を深める。 ・『十人十色なカエルの子』の教材づくり
d	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について

(2) 指導の概要（全11時間）

内 容	
事前	○学級の実態把握のための調査を実施する。 ○「いじめ」についてのイメージマップをつくる。
1次 (3時間)	○自分の名前の意味を考える。 1 出生届や命名について知る。 2 辞典で自分の名前の意味を調べ家族から聞き取りを行って、名前に込められた願いに気づく。 3 名前発表会を開き、名前に込められた家族の願いについて交流会を行う。
2次 (5時間)	○自分の中にある様々な感情に気づくとともに、自分の思いを伝える方法を知る。 1 「喜怒哀楽」の感情について考える。 2 セルフリラクセーションを実験をする。 3 相手を傷つけないで自分の思いを伝える方法を体験する。 ・アサーショントレーニングの体験 ○困っている友だちを援助する方法を学ぶ。 1 『守るたたかう』の話を聞き、心と体が深く関係していることを知る。 2 援助したり、されたりしたときの感情について語り合う。 ・ペアリラクセーションの体験
3次 (1時間)	○様々な「困難さ」について理解し、友だちとの関係づくりについて考える。 1 『十人十色なカエルの子』を読み、カエルの子の様々な特性について話し合う。 ・「十人十色」の意味を考える。 ・登場するカエルの「困り方」を知る。 ・それぞれの特性について、自分と比べながら理解する。 ・作者の伝えたいメッセージを理解する。

4次 (2時間)	<p>○「いじめ」について考える。</p> <p>1 『大石さんのこと』について学習する。 ・「いじめられる側に問題がある」ということについて話し合う。</p> <p>○構成的グループ・エンカウンター体験により、仲間と力を合わせ助け合うことの心地良さを実感する。</p>	指導実践(3)p18~p20
事後	<p>○「勇気」に関する絵本を読み、自分たちができることを考え、その思いを込めた5年2組の詩を作る。</p>	

単元構想図



教室の中に単元構想図を掲示し、「学習の向かう先」を確認しながら授業を進めます。

9 指導実践

1次	自分の名前の意味を考える。
----	---------------

(1) 第1時

ア 本時のねらい

自分の名前について調べ、その言葉や漢字の意味から、自分の名前に込められた周りの人々の願いに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の名前を辞典等で調べ、その言葉や漢字の意味を知らせる。

(イ) 感性を育む

この世に生を受けて、最初に家族から贈られたものが名前であることに気づき、自分がこの世でかけがえのない存在であることを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

自分の名前の漢字や言葉の意味を調べ、その名前に込められた家族の願いを想像させる。

ウ 準備物

- ・命名事典（名前の付け方）、国語辞典、漢和辞典、百科事典
- ・出生届

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと職員研修）

- (ア) 出生について調べることに問題がないか、事前に十分情報収集し協議を行う。
- (イ) 学校にある辞典だけでは不十分だと思われるので、あらかじめ、職員から命名事典等を借りておく。
- (ウ) 自分の名前からイメージしたことを絵でも表現できるので、その方法について図工専科等の教員と打ち合わせをしておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 この世に生を受けて、最初に家族から贈られた「名前」というプレゼントについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命名と出生届について 	<ul style="list-style-type: none"> ・命名についてふれるため、生活環境等、配慮すべきことに留意するとともに、子どもの表情を観察しておく。
展 開	<p>2 自分の名前について調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">自分の名前の意味を調べてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな方法で調べようかな。 ・調べたことを、どうやってまとめようかな。 ・まとめたことを、どんなふうに伝えたらいいだろう。 <p>3 「私の名前発表会」の計画を立てる。</p> <p>4 自分の名前について調べ始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一枚の画用紙に名前を書いて調べたことをまとめよう。 ・まとめたことをどんなふうに発表しようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで家族から聞いている子どもも多いと思うが、ここでは、自分で調べたことを大切にしたい。
ま と め	<p>5 「私の名前発表会」に向けて、発表の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での聞き取りを望む子どもについては認める。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 命名の意味について、ほとんどの子どもは知らなかったが、名前に込められた家族の願いを知り、新鮮に感じたようだ。
- (イ) 教師自身が自分の子どもに対して命名したときの思いを語ることで、親としての願いを伝えた。話に聞き入る子どもたちの様子から、この学習への意欲を感じた。
- (ウ) 準備した辞典類が不十分で、自分の名前が見つからないと残念がる児童もいた。また、漢字の意味から願いをくみ取ることに苦勞している子どももいたので、「名前字典」や「名付け方」の本も事前に用意しておく必要を感じた。
- (エ) 出生を調べることに配慮を要する子どもについて、養育者と事前の話し合いができたことは良かった。実践中も、家庭で養育者としての思いを子どもに語ってもらうなどの協力が得られた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分の名前の意味を調べてどんなことを感じましたか。	
感性を育む	○命名や出生届の話を聞いてどんなことを感じましたか。	
想像力の育成	○家族が子どもの名前をつける時の気持ちを想像してみましょう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



「命名」の意味
を辞書で調べ
ると・・・



先生の子どもの
名前はね・・・



ぼくの名前の画
数は・・・

3次	様々な「困難さ」について理解し、友だちのとの関係づくりについて考える。
----	-------------------------------------

(2) 第1時

ア 本時のねらい

人には様々な特性があり、その特性による困り方も人それぞれであることを理解する。そして、お互いがその特性を理解しあうことで、互いに認め合い助け合うことができることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

人それぞれに特性があり、その特性による困り方も様々であることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

人との関係において、互いに認め合い助け合うことにより、困難さをのりこえることができることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

作者のメッセージの意味を考えることで、困難さをもちながらも一人ひとりが大切な存在であるということを感じとらせる。

ウ 準備物

『十人十色なカエルの子』（東京書籍）の絵本

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 発達障害についての研修

(イ) 『十人十色なカエルの子』の絵本から、カエルの困り方の違いを6つに分類し、各分類を紙芝居の形で作成しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 題名の「十人十色」の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなちがっているということかな。 ・人それぞれ特色があるということかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいと密接に関係している言葉なので、しっかりとおさえておきたい。
展 開	<p>2 6匹のカエルの話を聞いて、どのようなことで困っているのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">6匹のカエルは、それぞれどんなことが苦手なのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに質問することが多くて、話をじっくりと聞くことが苦手なのかな。 ・一つのことばかりじっくり考えているのが苦手なのかな。 ・自分の周りのできごとに、気づくことが苦手なのかな。 <p>3 それぞれの特性について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">みんなは、6つのタイプのどれにあてはまるかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと同じでなくてもいいんだ。 ・困り方も人によって違うんだね。 ・一人ひとりに違った特性があって、それは個性と同じだね。 ・自分のことがよくわかると、どうしていけばよいかもわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なものとして6つのタイプを選ぶ。 <p><6匹のカエルの特性></p> <ol style="list-style-type: none"> ①学び方がちがう子 ②周りとの関わり方が分からない子 ③こだわりが強い子 ④気が散りやすい子 ⑤好きなことに夢中になりすぎる子 ⑥はやとちりする子 <ul style="list-style-type: none"> ・自分もどれかのタイプに入ること気づき、その困り方は人によって違うことを理解させる。 ・絵本で登場するカエル博士の言葉から、その特性を理解することで色々な工夫ができることを知らせる。

ま と め	<p>4 話の続きを読み、作者の伝えたい「十人十色」の意味を考える。</p>	<p>・聞くだけでなく、自分で作品を読みながら考えることができるようにする。</p>
-------------	---	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 「発達障害」という言葉を使わず、特性という言葉で紹介したが、子どもたちから「それは個性と一緒にだね」という言葉が出た。
- (イ) 最後の「作者からのメッセージ」で子どもたちは、「違いがあるということは当たり前のことで楽しい」「一人ひとりにすばらしいところがあり、そのすばらしさを大切にしよう」等と感じたようだ。中には「十人十色」の言葉から、「苦手なことがあってもいいんだ」「なぜか安心した」と感じ、自己肯定感につながった子どももいた。
- (ウ) 授業後も絵本を貸してほしいという子どもがたくさんおり、子どもが自分自身を認め、特性をどう生かしていくのかということに興味を持たせることができた。



6匹のカエルの特性を図示

【こどもの感想から】

- 苦手なことがあったとき、だめなんだと思ったこともあったけど、だめって思わなくていいと思った。
- 不安を安心にかえる方法はたくさんあると思った。
- このお話は落ち込んでいる人を元気づけるなと思った。
- 一人ひとりにすばらしさがあるから、そのすばらしさを大切にしようと思った。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○人それぞれにある特性や様々な「困難さ」について学び、どんなことを感じましたか。	
感性を育む	○作者の伝えたい思いを感じ取ることができましたか。	
想像力の育成	○自分の特性を知り、どのような工夫ができるか、想像することができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

4次	「いじめ」について考える。
----	---------------

(3) 第1時

ア 本時のねらい

いじめについて、「いじめの行為そのものが許せない」という思いを持ち、自分にできることは何かを考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

相手を思いやる気持ちを持つことが、よりよい人間関係をつくることにつながることを理解させる。

(イ) 感性を育む

「いじめを許さない」という思いを持つことが大切であることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめを受けている友だちに対して、自分ができることを考えさせる。
- ・相手の気持ちを想像することで、お互いがつながりあえることを理解させる。

ウ 準備物


「大石さんのこと」(『ともだち』兵庫県教育委員会)
ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

子ども達が「いじめ」に対してどのような考えを持っているか事前につかんでおく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 本文の挿絵から場面の状況をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの状況から、大石さんが疎外されていることを感じ取らせる。
展 開	<p>2 「大石さんのこと」を読み、大石さんの立場を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 大石さんは、クラスみんなから、どう思われているのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・動作がのろのろしている。 ・服の着方もどこかだらしがない。 ・すぐ怒る。 ・病気はもう治っているはずなのに…。 <p>3 「いじめられている大石さんにも問題があると考え」という「わたし」の思いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「大石さんにも問題がある」ということについて、どう思いますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人とちがうことでのけ者にしてはいけない。 ・外見ばかり見て大石さんの心を見ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大石さんがいじめられる立場にいることを理解させる。文章に書いていないことも想像させる。 ・自分の考えを明らかにし、十分討論させる。

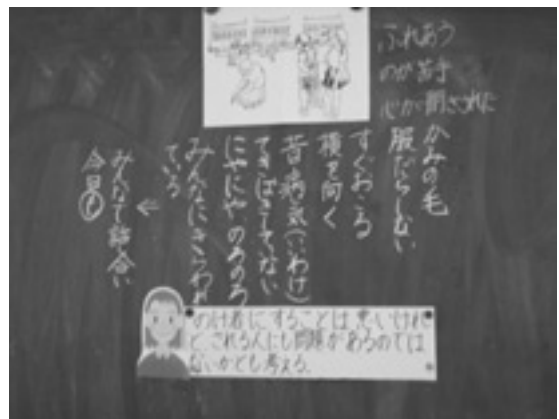
<p>展 開</p>	 <p>4 大石さんに対して自分ならどうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大石さんの気持ちを大切にしながら、自分の気持ちもしっかりと伝えたいなあ。 ・休み時間などに、自分から声かけをしたい。 ・大石さんにしてしまったことをあやまりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらが悪いということではなく、「いじめ」という行為そのものについて考えられるようにする。 ・これまで取り組んできた学習を、関連づけて振り返らせる。
<p>ま と め</p>	<p>5 「いじめ」について自分の考えをまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを自由に話し合い、発表するよう促す。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 授業前の意識調査では、「いじめられる側に問題がある」という意見があったので、大石さんを見てどう感じるかという点を中心に授業を進めていくことにした。
- (イ) 初めは「いじめられる側に問題がある」という意見に対して「異論あり 59%」であった。全員が自分の考えを発表し合う中で、「いじめることそのことが悪い」ということにみんなの思いが向かい、授業の最後では、「異論有り 88%」に変化した。
- (ウ) 子どもたちの意見の中には「一人ひとりの違いを理解していない」「一人でできないことも、二人・三人と力を集めればいい」というような、今まで学んだことを生かした発言も多くみられた。
- (エ) 「クラスで自分たちの思いを語り合い、みんながどんなことを考えているかがわかってよかった」という感想もあり、「大石さん」という架空の人物をとおして友だち関係について語り合うことにより、子どもたちがクラスのまとまりを感じることができた。
- (オ) 感想に「でもやっぱり怖くてとめられない」「自分がそんな目にあいたくない」と書いている子がいた。いじめに気づいたとき、相手を注意することだけが解決の方法ではなく、自分にできることを考えていくことが解決のスタートになること、小さな勇気の積み重ねが大切であるということ、今後作成する詩の中で表現させていきたい。

【こどもの感想から】

- 自分の意見では、大石さんはみんなからいやと思われているけれど、大石さんにだっていいところが絶対あると思うから、そんなに悪いことをいったらダメと思う。とにかく、いじめはダメ。
- このいじめの勉強をして思ったことは、いじめることは絶対ダメと思いました。
- みんなの意見をきいて「なるほど」と思えたのがうれしかった。



「大石さんのこと」板書

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○「大石さんのこと」を学習して、どのようなことを感じましたか。	
感性を育む	○「のけ者にすることは悪いけれど、される人にも問題があるのではないか」という意見について、自分の考えをまとめてみよう。	
想像力の育成	○大石さんに対して、具体的に自分はどんなことができるか想像してみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



自分の勇気の言葉を書いています

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

本学級は、授業前に行った児童の人間関係や学級の実態把握の調査では全体的に落ち着いた状態であった。しかし、個々の児童を見ると自尊感情の低い子どもや友だちとのトラブルを抱える子ども、家庭的な面で課題を抱える子ども等がいる。そのような実態から、この学習は「自尊感情」「豊かな人間関係」の2点を大切にしながら進めてきた。

5年生になると、子どもたちには「こうあるべき」という理想の姿があるが、一方で理想の姿とは違う現実の自分も実感している。そこで、もう一度名前について調べることで、名前に込められた家族の願いを再認識させ、自分も友だちも同じように大切な存在であるということに気づかせることができた。

そして、自分が怒りや悲しみを感じることは自然なことであり、「うそをつく」「人のせいにする」等も、心を守る一つの方法だということを知った。「ありのままの自分を受け入れる」ということが「自尊感情」を育てるスタートになることを改めて子どもたちに感じさせることができたと思う。

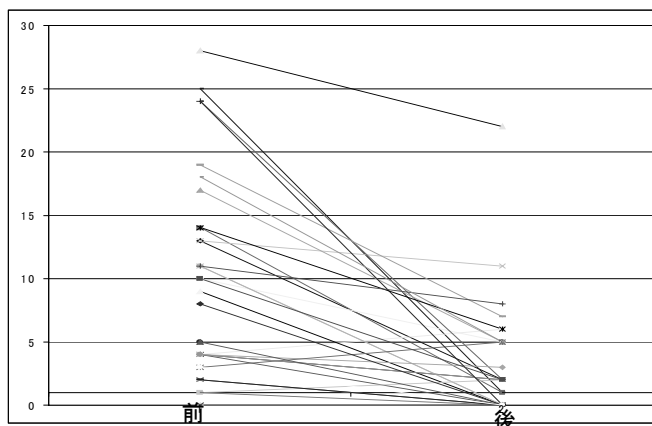
さらに、自分を受け入れたように友だちを受け入れるということの心地よさを実感させることにもつながり、『十人十色なカエルの子』の学習では、それぞれの特性を個性として受け入れ、「ありのままの自分でいいんだ」ということを実感させることができた。

ストレスチェックの変化などから、「リラクゼーション」「アサーション・トレーニング」等のワークは、子どもたちが体験的に学ぶ手段として有効な方法であるということが明らかになった。リラクゼーションについて目に見える形で実感できたようだ。このような積み重ねが、『大石さんのこと』の学習の討論につながっていったと考える。

一連の学習は、子どもたちの日常生活にも少しずつ変化をもたらしていった。トラブルに対してどのように語れば思いが伝わるのかを工夫したり、衝動性を抑えようとしている友だちの変化をみんなで認めて評価したり、日常のストレス場面でリラクゼーションを実践したりしている。これは、内容的には多種多様ではあるが、「以心伝心の仲間をめざして」というテーマを子どもたちの前に提示し、この学びが目指すところを絶えず意識させていったことによると考える。テーマが子どもたちに身近なものであることで、意識と意欲を持たせ続けることができ、子どもたちにも学習への見通しを持たせることができた。

子どもたちが「次の授業はいつになるの?」という質問をしてくるようになったことから、この学習への意欲を感じる事ができた。

セルフリラクゼーションの体験前と後のストレス反応得点の変化



(2) 今後の課題

ア 授業実践上の課題

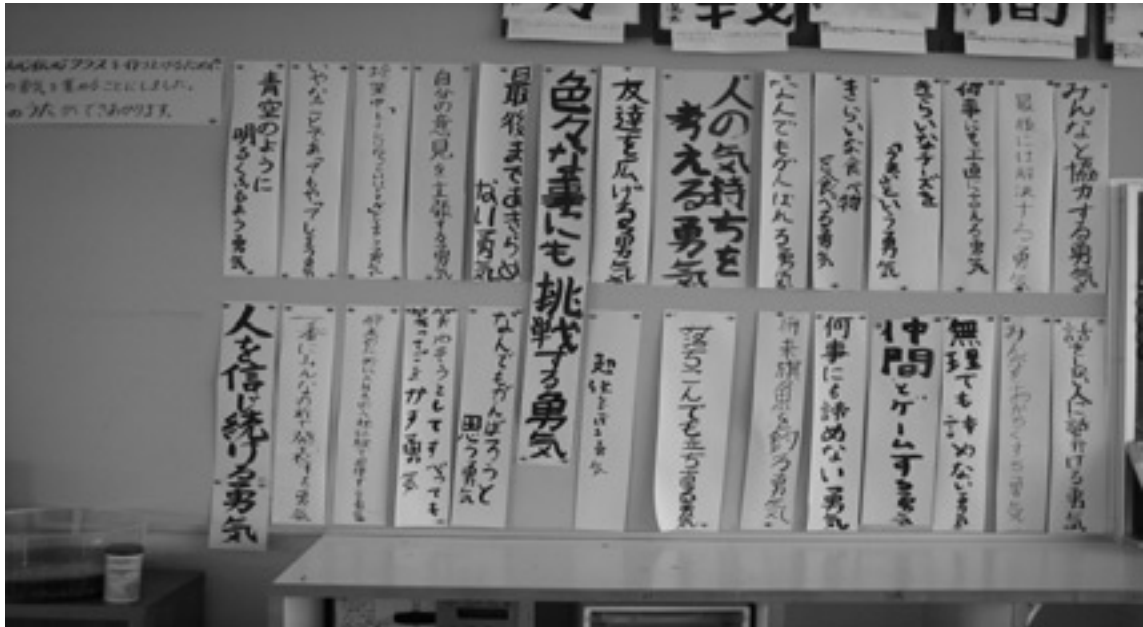
授業時間が限られているため、進め方が速い場面があり、もう少し時間的な余裕を持って進める必要があった。

イ 家庭や地域との連携についての課題

- ・子どもが抱える様々な課題を意識しながら学習を進めることで、家庭や地域と連携できたことはよかったと考える。実際に保護者と話す機会を持つことができ、そのことで子どもたちにとっても、家庭で話をする機会や配慮が得られたと感じる。
- ・授業を始めるにあたって学級通信で趣旨を伝え、授業の経過も伝えていった。保護者からも感想をいただき、各教科の学習だけでなく、学校で命や心の学習をすることを評価していただけたことはありがたかった。

ウ 学校の組織運営上の課題

教職員にも学級通信をとおして、授業の経過を報告した。特に、リラクセーションに関しては興味を持ち、研修の希望も出された。今回は一つの学級での取組であったが、今後は学年、学校全体として取り組んでいきたい。



5年2組 勇気の言葉

11 参考・引用文献

- ・兵庫県人権・同和教育研究協議会 編 『じんけんスキルブック』2001
- ・兵庫県教育委員会 『ともだち5』1978
- ・國分康孝 監修『エンカウンターで学校が変わる』 図書文化 1997
- ・教育カウンセラー協会 『教育カウンセラー標準テキスト』2004
- ・河村茂雄 『学級崩壊予防・回復マニュアル』 図書文化 2000
- ・落合みどり 『十人十色なカエルの子』 東京書籍 2003
- ・佐藤 饒 『見て分かる困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社 2006
- ・富永良喜 他 編著 『動作とイメージによるストレスマネジメント教育』
北大路書房 1996
- ・嶋田洋徳 他 『健康心理学研究』1994

事例2 いのちへのまなざし
(淡路市立大町小学校第5学年)

小学校事例2

いのちへのまなざし

淡路市立大町小学校第5学年

1 テーマ

いのちへのまなざし

2 実践のねらい

命をいつくしむ様々なまなざしに触れる体験をとおして、自他の命を大切にしようとする態度を養う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は淡路島中北部の農村地帯に位置する、各学年1学級の小規模校である。住宅の建設等により本校の児童数は過去数年の間、微増傾向にあり、地域と学校はかねてより密接なつながりがあった。また、教育に対する保護者や地域の関心も高い。教育課程の中には地域の様々な人との交流が位置づけられ、地域の人々の指導による社会教育活動も盛んである。

一方、核家族化の進行や共働きの増加など家庭の状況は大きく変化し、子どもの生活の様子も大きく変容している。テレビやゲームによる影響は計り知れず、豊かな自然の中で五感をはたらかせて遊ぶ経験は明らかに減少している。また、学校生活においては低学年の児童と仲よく遊び、思いやりを持って接する子どもたちであるが、日常の地域生活において異年齢の人とふれあう機会は決して多いわけではない。

そこで、「小さな命へのいつくしみ」に焦点をあて、感性にはたらきかける活動をとおして成長することの喜びや生きることのすばらしさを実感させ、自他の命を大切にしようとする態度を育てたいと願い、本テーマを設定した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・幼児との交流をとおして、小さな命の輝きを感じ取らせるとともに、幼児と関わり合うことの喜びを体験させる。

【感性を育む】

- ・小さな命の輝きに触れる体験活動や聞き取り活動をとおして、思いやりやいつくしみの感情を育む。

【想像力の育成】

- ・「子守歌」（眠らせ歌）を題材にした活動をとおして、歌とともに受け継がれている「命に対する思い」について考えさせる。
- ・自分自身の中で生まれた「いのちへのまなざし」を豊かに表現させる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・すべての教育活動の中で命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・命、出産、成長に関する本を読み、自分の考えを整理する。
- ・「子守歌」に関する資料を収集する。
- ・地域の「子守歌」の伝承について調べる。
- ・保育園の職員に対して活動の意図を説明し、助言を受けながら交流の打ち合わせを行う。
- ・児童の家庭の状況を把握し、十分に配慮する。
- ・家庭や地域の人々に対して活動の趣旨を伝え、協力を得る。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・音楽
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・ 自尊感情を高める体験をする。
- ・ 命、出産、成長に関わる身の回りの出来事を思い起こす。
- ・ 命に関わる読書経験を振り返る。

(4) 家庭や地域との連携

- ・ 家庭や地域の人々に対して活動の趣旨を伝え、理解と協力を求める。
- ・ 地域の保育園に協力を依頼する。

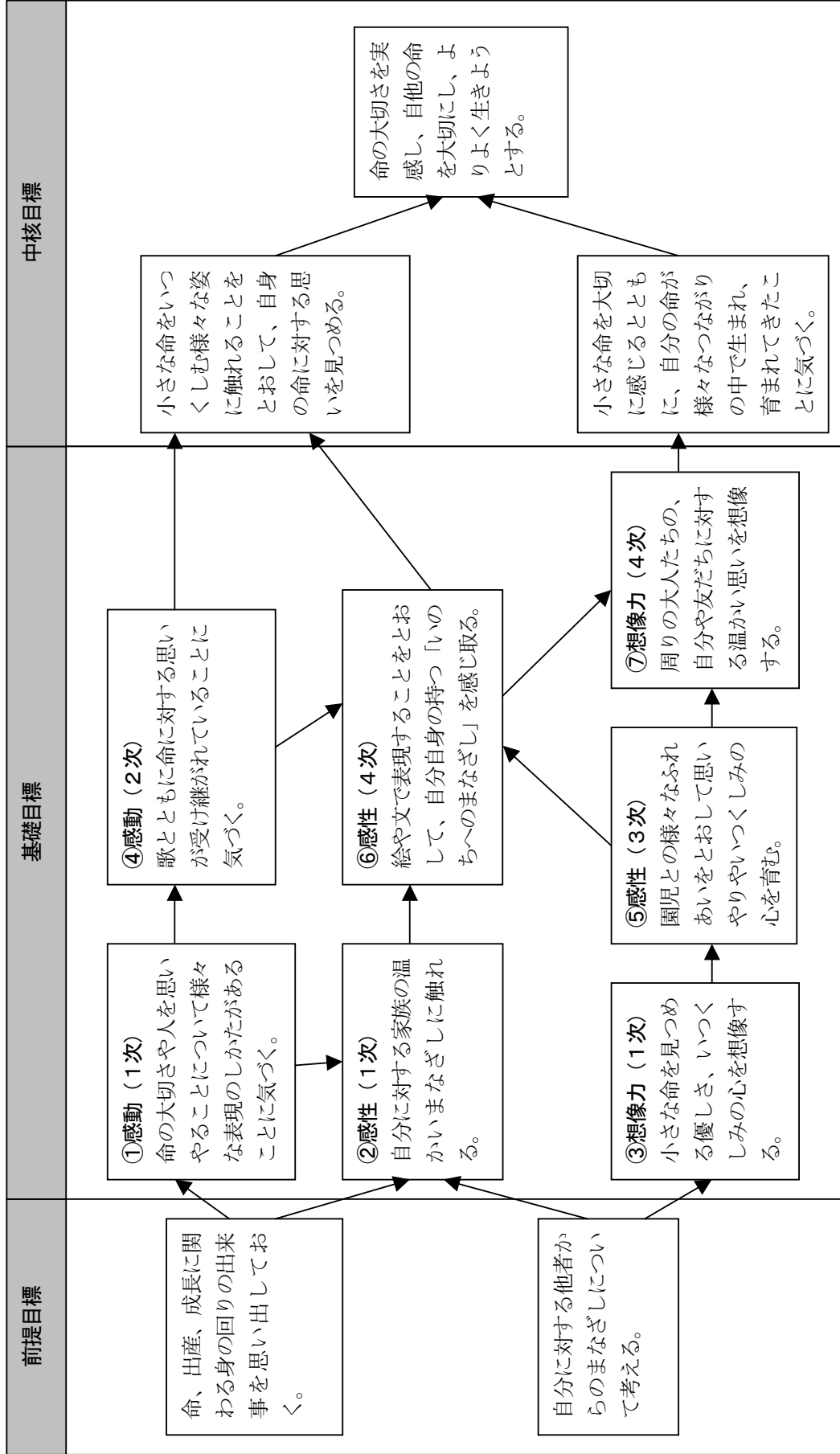
5 本校の実践の特色

- (1) 命についての見方を広げ深めるためのブックトーク
- (2) 音楽科「子守歌」の学習と関連づけた学習活動
- (3) 保育園と連携した交流体験学習
- (4) 自分自身を見つめ直し表現する「絵本づくり」の活動

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「命の大切さ」 実感尺度に記入する。 ○ 自尊感情を高める体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の命の存在に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命、出産、成長に関わる身の回りの出来事を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分に対する他者からのまなざしについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命に対して様々な見方やとらえ方があることに気づかせることができたか。 ○ 自分に対する周囲の温かいまなざしを見つめさせることができたか。
1次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「小さな命」に関する絵本を読んで話し合う。 ○ 自分自身の出生時や乳幼児期について聞き取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の大切さや人を思いやることについて様々な表現のしかたがあることに気づく。 ○ 家族からの聞き取りをおおして、家族の愛情を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本を読んで感じたことを互いに表現しあうことをとおして、命に対する自分の考えを深める。 ○ 自分に対する家族の温かいまなざしに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小さな命を見つめる優しさ、いつくしみ的心を想像する。 ○ 家族の愛情を感じ取り、自己と同様にかけがえのない他者の存在に気づく。 	
2次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子守歌」について調べる。 ○ 歌に見られる「いのちへのまなざし」について追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いくつかの「子守歌」に共通している「心を落ち着かせ、眠らせる感じ」に気づく。 ○ 歌とともに命に対する思いが受け継がれていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子守歌」に込められた優しさ、いつくしみ的心を実感する。 ○ 「子守歌」が様々な人たちのつながりの中で生まれ、大切に育まれてきたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌の鑑賞や表現をおおして「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像する。 ○ 「子守歌」の歌詞や説明から、歌い手の姿を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像させることができたか。
3次 (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園児との交流体験をする。 ○ 交流体験について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児と主体的に関わることの喜びを味わう。 ○ 園児それぞれが持つ命の輝きを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児と毎日接している保育士の思いを想像する。 ○ 小さな命の尊さについて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小さな命を大切に感じるとともに、自分の命が様々なつながりの中で生まれ、育まれてきたことを実感させることができたか。 	
4次 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本づくりをし、相互に発表し合う。 ○ 自作絵本の読み聞かせ活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの、小さな命をいつくしみ体験を振り返る。 ○ 絵本づくりをおおして、絵本に込めた自分の思いが、強くなっていくことを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や文で表現することをおおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じ取る。 ○ 友だちが作った絵本を読んで、他者の命に対する様々な思いこふれる。 ○ 自他の命を大切にしようとする心情を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像する。 ○ 自分が絵本に込めたメッセージや願いが、他者にどのように伝わっているか考える。 ○ 小さな命をいつくしみ様々な姿に触れることをとおして、自身の命に対する思いを見つめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本づくりをおおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じ取ることができたか。 ○ 自他の命を大切にしようとする心情を高めることができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りカードに記入する。 ○ 「命の大切さ」 実感尺度に記入する。 				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育て」、「①」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。〈提言P64：教員研修テーマ①〉 ・「わたしはわたしが好きです。なぜなら…」 ・「ここがあなたのいいところ」
b	○児童理解を深める。 ・児童の生育歴や生活の状況について、具体的な事例をもとに理解を深める。
c	○「子守歌」について調べ、教材研究を行う。 ・「子守歌」について研究を深め、学習資料を作成する。 ・地域の伝承について事前調査を行う。
d	○保育園の職員と懇談し、交流体験活動のねらいについて共通理解を図る。 ・保育をとおして小さな命を見つめる職員の思いに触れる。 ・交流のねらいを明確にし助言を受けるとともに、必要な支援について話し合う。

(2) 指導の概要（全21時間）

内 容	
事前	○「命の大切さ」実感尺度に記入する。 ○自尊感情を高める体験をする。 指導実践(1)p28～p29 教員研修 a
1次 (4時間)	○命に関する絵本を読んで話し合う。 ・「小さな命」「受け継がれる命」「大切な命」などのテーマで、グループごとにブックトークを行う。(3時間) ○自分自身の出生時や乳幼児期について聞き取りを行う。 ・出生時や乳幼児期の様子について家族から聞き取る。(1時間) ・自分に向けられてきた周囲からの「まなざし」について感じたことを表現する。 指導実践(2)p30～p31 教員研修 b 教員研修 c
2次 (4時間)	○「子守歌」について調べる。 ・各地の「子守歌」を鑑賞する。(2時間) ・自分自身が聞かせてもらった「子守歌」「眠らせ音楽」や身近な地域に伝わる「子守歌」について聞き取りを行い、わかったことを発表する。 ○歌に見られる「いのちへのまなざし」について追究する。 ・歌に込められた歌い手の思いについて、音楽をとおして考え話し合う。(2時間) 指導実践(3)p32～p33 教員研修 d
3次 (7時間)	○保育園児との交流体験をする。 ・保育園の職員との交流をとおして、小さな命を見つめる職員の思いにふれる。 ・保育園児との交流の計画を立てる。 ・計画に沿ってグループごとに準備を行い、交流体験活動に取り組む。 ○交流体験について発表する。 ・交流体験の様子やそれをとおして気づいたことについて発表し合う。(2時間) 指導実践(4)p34～p35
4次 (6時間)	○絵本づくりをして、学級で発表し合う。 ・「いのちへのまなざし」をテーマに絵本づくりをする。(4時間) ○自作絵本の読み聞かせ活動を行う。 ・作った絵本を用いて読み聞かせを行う。(2時間) ・絵本の感想について話し合う。
事後	○振り返りカードに記入する。 ○「命の大切さ」実感尺度に記入する。

9 指導実践

1次	命に関する絵本を読んで話し合う。
----	------------------

(1) 第2時

ア 本時のねらい

命に関する絵本を読んだりその感想を交換したりすることをおして、小さな命を見つめる思いを想像するとともに、命の大切さや人を思いやることについて様々な形で表現されていることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

命の大切さや人を思いやることについて様々な表現のしかたがあることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

絵本を読んで感じたことを互いに表現しあうことをおして、命に対する自分の考えを深めさせる。

(ウ) 想像力の育成

小さな命を見つめる優しさ、いつくしみの心を想像させる。

ウ 準備物 「小さな命」を題材にした絵本

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 児童の命に関する意識を把握しておく。

(イ) 「小さな命」を題材にした絵本について調べ、収集する。

(ウ) ブックトークのテーマや効果的な進め方について検討する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時に絵本を読んだ感想を話し合う。	・感想をもとに、作者が絵本をおして伝えたかったことは何か、という絵本を読むときの大切な視点について、確認させる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">絵本を読んで、「小さな命」について考えよう。</div>	
	2 「小さな命」を題材にした絵本を読み深め、内容や感想をまとめる。	・「小さな命」に関する本を教室に多く用意して、いつでも気軽に開くことができるようにしておく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分の感じたことを入れながら、自分が読んだ絵本を友だちに紹介しよう。</div>	
	3 グループごとにブックトークを行う。 ・『せかいいちのあかちゃん』を読んで、きょうだいていいなあと思った。自分の親もこんなことを言っていたのかな。 ・『小さな小さなおとうとだったけど』は、とても悲しいお話だったけれど、両親の深い愛情を感じた。 ・『あなたの小さかったとき』を読んで、自分の小さかったときのことを思い出した。わたしもときどき自分の小さかったころを見たくて、アルバムを開くことがある。	・絵本からどのようなメッセージを受け取ったのか表現させるようにする。

まとめ	<p>4 ブックトークの感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の本も読んでみたくなった。 ・同じ絵本を読んでも感じていることがちがっていた。 ・自分の小さいころの経験を思い出した。 ・赤ちゃんをかわいいと思う気持ちはみんな同じなんだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想や意見を交流させることにより、自分の考えを深めさせる。
-----	---	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 児童は絵本によく親しみ、のびのびと発表することができた。多様な絵本を用意することでさらに活動の効果が高められると感じた。

(イ)ブックトークをとおして、自分が誕生した時の聞き取りに向けての視点を持つことができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○絵本を読み、命の大切さや人を思いやることについての様々な表現を見つけよう。	
感性を育む	○友だちの感想を聞いて、命に対する自分の考えを深めよう。	
想像力の育成	○小さな命を見つめるときのやさしさやいつくしみの心を想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



私の読んだ絵本はね・・・



僕はこんな感想をもったよ。

2次	「子守歌」について調べる。
----	---------------

(2) 第1時

ア 本時のねらい

「子守歌」（眠らせ歌）を鑑賞することをとおして、歌手の「小さな命」に対する思いを豊かに感じとる。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

様々な「子守歌」に共通している“心を落ち着かせ、眠らせる感じ”に気づかせる。

(4) 感性を育む

「子守歌」に込められた優しさ、慈しみの心を実感させる。

(9) 想像力の育成

「子守歌」の歌手の気持ちを豊かに想像させる。

ウ 準備物 各地の「子守歌」（CD・カセットテープ）・資料「いろいろな子守歌」「子守の様子」

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(7) 「子守歌」に関する児童の学習経験を把握しておく。

(4) 様々な「子守歌」について調べ、資料を収集する。

(9) 題材の効果的な提示のしかたについて検討する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 1学期の「子守歌」の学習について話し合う。	・自由に発表できる雰囲気づくりに努める。
	2 各地の「子守歌」を聞き、感じたことを話し合う。 （鑑賞曲）江戸子守歌／青森地方の子守歌／ 岡崎地方の子守歌／中国地方の子守歌／ 由良（洲本市）の子守歌 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">各地の「子守歌」をくらべて、どんなところが似ているか、考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねんねんよ」「ねんねこ」「ねにやもにや」など、歌詞が似ているなあ。 ・どの歌も速さがゆっくりしている。 ・静かでやさしい感じがする。 	・どの歌にも共通するゆったりとした2拍子の感覚や言葉の優しい感じに注目させ、赤ん坊を眠らせている様子を想像させる。
展 開	3 資料をもとに、歌手の思いにふれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">歌手は、どんな気持ちで、この歌を歌ったのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・おんぶをして子守りをしている様子を絵で見たことがある。 ・ゆっくりゆらしながら眠らせたのだろうか。 ・おどしているようなこわい歌詞もある。 ・赤ちゃんの興奮をはずめるのはたいへんだっただろう。 	・感じたことを自由に答えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を手がかりに、歌手の思いを感じ取らせるようにする。 ・様々な「子守歌」の歌詞や説明を読んで、歌を歌っている様子を想像させる。

まとめ	<p>4 学習の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地にこんなにたくさんの「子守歌」があるとは知らなかった。 ・祖母が幼い妹に「子守歌」を歌っているのを聞いたことがある。 ・「子守歌」は優しさの込められた歌だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を交換し共有させ、聞き取り活動への意欲を持たせる。
-----	--	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 各地の「子守歌」を比較しながら鑑賞し、それぞれの歌に共通する歌のリズムや言葉の調子を手がかりに歌い手の様子を想像させた。また、補助資料により子守りの様子を具体的に示すことが重要だと感じた。
- (イ) 話し合いにより、聞き取り活動への意欲を持たせることができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○「子守歌」に共通する「眠らせる感じ」「心を落ち着かせる感じ」を感じ取ろう。	
感性を育む	○「子守歌」に込められた思いやりやいつくしみの心を感じ取ろう。	
想像力の育成	○「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

3次 保育園児との交流体験をする。

(3) 第4時

ア 本時のねらい

保育園児との関わりの中で、自分の中の優しさをふくらませ、かけがえのない命を育てようとする喜びを感じとる。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

園児と主体的に関わることの喜びを味わわせ、「命の輝き」を感じ取らせる。

(4) 感性を育む

園児との様々なふれあいをとおして優しさや慈しみを実感させる。

(7) 想像力の育成

園児を世話する保育士の思いを想像させる。

ウ 準備物 事前交流の記録

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(7) 保育士と打ち合わせを行い、活動のねらいについて共通理解しておく。

(4) 園児の実態や配慮事項について把握しておく。

(7) 活動の参考となるように、事前交流の記録を整理しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 事前交流について振り返る。	・事前交流で経験したことを想起させる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 保育園児との交流の計画を立てよう。 </div>	
	2 活動グループごとに、事前交流で気づいたことや感じたことを話し合う。 ・たこあげが楽しそうだった。 ・かるた遊びの好きな子がたくさんいたが、人数が多すぎるとたいへんだ。 ・保育園の先生が「けがをさせないことが第一」と言っていたので、気をつけないといけな。	・事前交流の経験が計画に反映されるように、十分に感じたことを話し合わせる。
	3 交流の具体的な計画を立てる。 ・年長組の子たちには、手作りのパズルやクイズを用意してあげよう。 ・なわとびや竹馬、めんこ遊びを教えてあげたい。 ・年少組の子たちと、ままごとや砂遊びをいっしょにしよう。	・園児の実態にあわせて主体的に交流活動が進められるように助言する。
ま と め	4 各グループの計画について発表し合う。	・続いての活動が絵本づくりであることを伝え、交流への意欲を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 事前交流を行ったことで園児の様子がよくわかり、園児の年齢に応じた具体的な計画を立てることができた。
- (イ) 多くの児童が話し合いに活発に参加し、遊びの工夫などを主体的に考えるようになった。
- (ウ) 事前に聞いた保育士の話が、交流への意欲や自信となり、園児の安全面にも配慮することにつながった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○園児とふれあうことの喜びを味わい、園児一人ひとりの輝きを感じ取ろう。	
感性を育む	○園児に優しい気持ちを持って関わったことで、感じたことを書こう。	
想像力の育成	○園児と接している保育士さんの思いについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



こうやってやるんだよ。



園児と遊ぶ児童たち

4次	絵本づくりをして、学級で発表し合う。
----	--------------------

(4) 第1時

ア 本時のねらい

これまでの学習をとおして自分の中に育まれている「いのちへのまなざし」を、絵本で表現し、命をいとおしく思う気持ちを持つ。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

絵本づくりをとおして、小さな命を慈しむ気持ちを実感させる。

(4) 感性を育む

絵や文で表現することをとおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じ取らせる。

(9) 想像力の育成

周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像させる。

ウ 準備物 「小さな命」を題材にした絵本、これまでの学習活動の記録

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(7) 参考資料として、「小さな命」を題材にした絵本を収集しておく。

(4) これまでの学習活動の記録を整理し、児童が活動を振り返りやすいようにしておく。

(9) 絵本による効果的な表現の指導法について研究する。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	・児童が、これまでの学習活動の中で感じたことを想起できるような雰囲気をつくる。
展 開	「命」「優しさ」「思いやり」を題材にした絵本を作ろう。	
	2 制作から読み聞かせまでの見通しを立てる。 ・どんな絵本にしたら喜んでもらえるだろうか。 ・自分の好きな絵本を参考にしたらいいのかな。	・園児に読み聞かせる場面を想像させながら、自分の思いを絵や文に表現できるよう助言する。
ま と め	絵本にどんなメッセージを込めるか考えよう。	
	3 資料をもとに、絵本の構想を考える。 ・子どもの様々な表情を絵本にしたらいいのかな。 ・「大切なもの」をテーマにして作ってみよう。 ・動物の親子の様子を描きたいな。 ・「自分らしさが大切」というメッセージを伝えたいな。 ・主人公が夢を語るお話にしてみよう。	・資料を手がかりにしながらい具体的な構想を練らせる。
ま と め	4 絵本の構想について話し合う。	・それぞれの考えを交換することにより、創作活動への意欲を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(7) 多様な絵本を提示したことで、児童が作りたい絵本のイメージを持たせることができた。

(4) 保育園児との交流を思い出させることで、絵本の創作活動に意欲的に取り組ませることができた。

キ 振り返りカード

振り返りカード		年 組 名 前 ()
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○小さな命をいつくしむ気持ちを感じましたか。	
感性を育む	○絵や文で表現することとおして、自分の中にある「いのちへのまなざし」を感じ取ろう。	
想像力の育成	○周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



絵本づくりに取り組む児童



こんな絵本ができたよ。

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

この実践では、「小さな命へのいつくしみ」に焦点をあて、「小さな命」を見つける様々なまなざしに触れることをとおして、生きることの喜びやすばらしさを実感させることをねらいとした。

絵本を用いた1次の活動では、教師がぜひとも児童に読ませたい命に関する絵本を幅広く収集したことにより、児童一人ひとりが生き生きと絵本に親しみ、感想の交換をすることができた。さらに、自分の乳幼児期のことを家族から聞き取る活動にも、意欲的に取り組ませることができた。

「子守歌」の学習では、淡路地域に固有の伝承を見い出すことはできなかったが、各地の子守歌の鑑賞や聞き取り活動とおして、小さな命である赤ちゃんの興奮をはずめて眠らせようとする歌い手の気持ちに思いをめぐらすことができた。親から子へ受け継がれる「いのちへのまなざし」は時や場所を超えて変わらぬものであり、それが「子守歌」という文化とともに継承されていることに気づかせることができた。この学習においては、実際に「子守歌」を歌って子守りをした人に直接お話を聞

くことができれば、さらに学習の効果が高められると考えられる。

保育園児との交流は、児童にとって貴重な直接体験の機会となった。事前交流における経験や保育士からの助言を参考にしながら、計画から実施まで主体的に取り組むことができた。これは保育園の職員から多大な協力を得ることができた成果である。事前の綿密な打ち合わせをとおして活動の意図や留意点について十分に共通理解しておくことの大切さを実感した。

絵本づくりの活動では、児童が個々の発想を生かし意欲を持って取り組むことができた。表現は様々であったが、それぞれの絵本に児童の願いやメッセージが込められており、児童の豊かな感性が映し出された。

「命の大切さ実感尺度」による調査を学習前（7月）・学習後（1月）に実施した。その結果、「連帯感」の項目で大きなプラスの変容が見られたほか、「成就感・達成感」と「自然・生命への畏敬の念」の各項目においてプラスの変容が見られた。これらは、本実践だけでなく「自然学校」をはじめとする諸行事・諸活動の積み重ねをとおして総合的に養われたものであるととらえるべきであるが、とりわけ「連帯感」の向上については、保育園交流体験への主体的な取組の成果であると考えている。

実践全体を今一度振り返ってみると、この学習活動に貫かれていた「命を大切にすること」の基本要素は、「安全」「安心」であったように思う。すなわち、「いのちへのまなざし」に「命を守り、病気やけがをしないで元気に育つように」や「穏やかで楽しく生活できるように」といった願いが込められたものとして捉えていった。この活動をとおして培われた児童の中の「いのちへのまなざし」が、一人ひとりが未来に向けて生きていく力となることを切に願っている。

(2) 今後の課題

本実践の中で、児童は自分自身の幼少時のことや「子守歌」「眠らせ音楽」について繰り返し聞き取り活動を行った。このような活動を一層充実させるためには、事前の話し合いをとおして児童自身の中に聞き取りの視点を明確に持たせるとともに、活動の意図について保護者や地域の人に十分な理解と協力を得るよう努める必要がある。

本実践は、総合的な学習の時間を中心に計21時間にわたって実施したが、持続性・発展性のあるカリキュラムとして位置づけるためには、各教科間の関連づけを工夫していく必要がある。また、事後の振り返りを丁寧に行って、体験に意味づけをしていくことも忘れてはならない。

「命の大切さを実感する」過程は、「命は大切なものである」という認識と「生きるってすばらしい」という感動が結びついていく過程であると考えられる。児童が様々な体験を通じてその結びつきを強くすることができるような学習活動に、今後も取り組んでいきたい。

11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2007
- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集』 2007
- ・ケヴィンヘンクス 著『せかいいちのあかちゃん』徳間書店 1996
- ・松永伍一『日本の子守唄』紀伊国屋新書 1994
- ・越智登代子 『あなたの小さかったとき』福音館書店 2002
- ・高橋妙子 『小さな小さなおとうとだったけど』あかね書房 2005
- ・渡辺富美雄・松沢秀介 編『子守歌の基礎的研究』明治書院 1979